



医療法人 凌雲会

MEDICAL CORPORATION RYOUN GROUP

# 従来使用の栄養チューブから細いチューブに変更しての 摂食・嚥下訓練の試み



医療法人凌雲会稲次整形外科病院

○谷本生弥 花井幸子 高橋美香 鈴江春代 林田理恵子 堀江和枝 岩藤のり子

# 【はじめに】

## 経鼻経管栄養を行うリスク

- ・鼻腔に潰瘍ができる。
- ・誤嚥性肺炎などの合併症
- ・鼻腔にチューブを長期間及び長期に留置するため不快感が強くチューブの自己抜去がある。また、再挿入時に拒否が見られる。



# 【研究目的】

○経鼻経管栄養時に使用する栄養チューブを従来使用の太いチューブ(2.5－4.5mm)から**細いチューブ(2.0－3.5mm)**に変更したことによる利点、欠点を明確にする

○摂食・嚥下の評価をして、患者の負担が緩和できる経鼻経管栄養を目指す



# 【太いチューブと細いチューブの比較】



製品番号	呼称	内径mm	外径mm	全長mm	カラーコード
------	----	------	------	------	--------

0110505	E-5	2.0	3.5	1,200	イエロー
0110507	E-7	2.5	4.5		

# 【研究方法】

〈アンケート調査を行う〉

- ・対象は経鼻経管栄養を実施している患者とケアに関わった看護師

- ・経鼻経管栄養の注入時間、挿入時の困難や不快感による自己抜去の回数、鼻腔の潰瘍等のリスクの有無を調査する。

# 【研究期間】

平成26年8月1日



平成26年10月31日



# 【結果および考察】

	利点	欠点
1	嚥下しやすいため挿入しやすい	柔らかく咳嗽反射で曲がるため、再挿入の回数が増えた
2	鼻腔への潰瘍が少なくなった	注入時間が10分延長
3	患者の不快感は解消して自己抜去の回数が減少した	粘調な栄養剤や薬がつまる
4	栄養チューブ挿入のまま、摂食・嚥下訓練は容易であった	



○太いチューブが喉頭蓋にあたり嚥下運動を阻害するという報告がある。

→摂食・嚥下訓練を実施するには細いチューブが有効である。

→当院でも細いチューブを挿入したまま摂食・嚥下訓練を実施しようと試みたところ、訓練時には容易に嚥下ができていた・・・

2～3日後に誤嚥性肺炎を起こし訓練中止となった。



# 【結論】

○栄養チューブを従来のチューブから細いチューブに変更することで、それぞれの利点、欠点が明確になった。

○摂食・嚥下訓練を試みてみたが、訓練途中で誤嚥性肺炎になり、明確な評価はできなかった。

今後さらに検証していき、摂食・嚥下訓練が有効にできるようにしていきたい。



## 【参考文献】

- 1)藤森まり子:経鼻胃栄養チューブは胃に入ったことを確認できれば安全である? EBNURSING、vol.10、P221～223、2010年
- 2)看護技術が見える Vol.2 第1版、P268～269  
平成25年
- 3)脳神経疾患患者の急性期における胃管抜去の要因分析 東山智子 第38回日本看護学会論文集、成人看護 I、2009年3月25日、P232～234
- 4)芳村直美:経鼻経管栄養での自宅退院が2週間後に予定された高齢者へのアプローチ、月刊ナーシング、vol.32No13、P55～59、2012年
- 5)ファイコン製品、[www.fujisys.co.jp/?page\\_id=1817](http://www.fujisys.co.jp/?page_id=1817)、6月30日

ご清聴ありがとうございました。



MEDICAL  
CORPORATION  
RYOUN GROUP

医療法人 凌雲会 稲次整形外科病院



MEDICAL  
CORPORATION  
RYOUN GROUP

医療法人 凌雲会 **稲次整形外科病院**